

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 12年5月 ～貿易赤字がさらに拡大

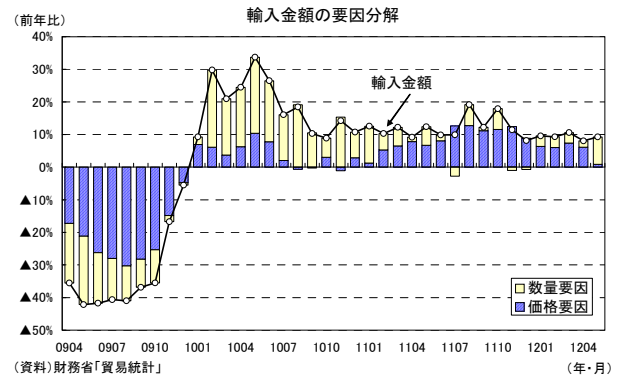
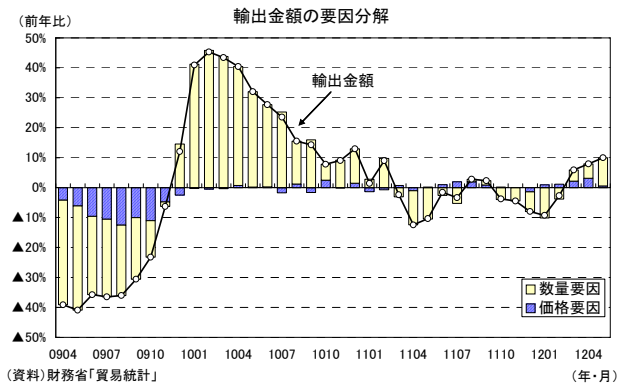
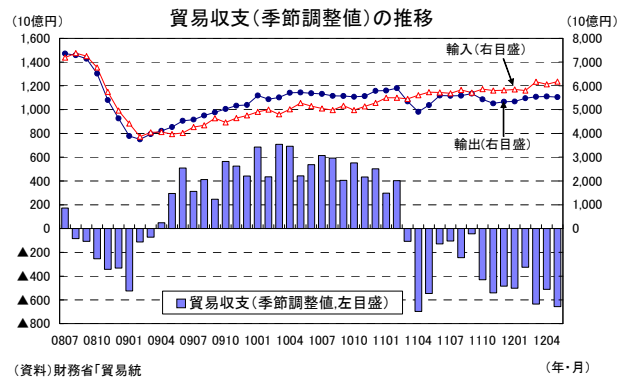
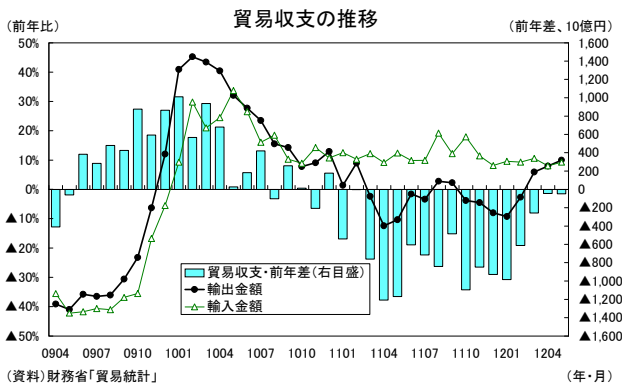
経済調査部門 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 貿易収支は市場予想を大きく下回る

財務省が6月20日に公表した貿易統計によると、12年5月の貿易収支は▲9,073億円と3ヵ月連続の赤字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲5,150億円、当社予想は▲5,930億円）を大きく下回った。輸出は4月の前年比7.9%から同10.0%へと伸びを高めたが、事前予想では3%程度となっていた輸入の伸びが前年比9.3%（4月：同8.1%）とそれを大きく上回った。

季節調整済の貿易収支は▲6,572億円と15ヵ月連続の赤字となり、4月の▲5,120億円から赤字幅が拡大した。輸出が前月比▲0.5%と6ヵ月ぶりに減少する一方、輸入が前月比1.9%と2ヵ月ぶりに増加した。季節調整済の貿易赤字は東日本大震災直後の11年4月の▲6,971億円に次ぐ高い水準となった。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比9.4%（4月：同4.7%）、輸出価格

が前年比 0.6% (4月:同 3.1%) であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比 8.4% (4月:同 1.9%)、輸入価格が前年比 0.8% (4月:同 6.0%) であった。

このように、5月の貿易収支は輸入の上振れを主因として、事前の市場予想を大きく下回ったが、今年の5月は休日(土日、祝祭日)が昨年よりも2日少なく、通関日数が多かったことが輸入の高い伸びに影響している可能性があることには注意が必要だ。

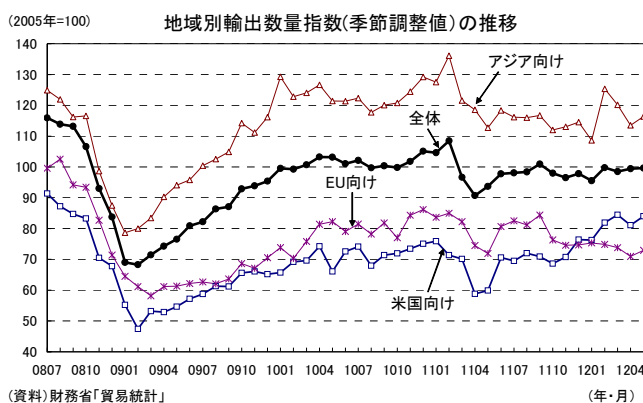
今年の5月の営業日数を旬別に前年と比較すると、上旬が2日増、中旬が2日減、下旬が2日増となっており、輸入の伸びは上旬が前年比 30.2%、中旬が同▲22.6%、下旬が同 31.4%と営業日数の増減に連動する形となっている。5月の輸入の伸びは営業日数の影響で高めに出ており、このことが貿易収支の悪化の一因となっている可能性が高い。5月の貿易収支が実勢として大きく悪化したと考えるのは早計だろう。

## 2. 米国向け輸出が輸出全体を下支えする構図は変わらず

5月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 39.4% (4月:同 37.4%)、EU向けが前年比 1.0% (4月:同▲5.3%)、アジア向けが前年比 2.7% (4月:同▲4.2%) となった。

季節調整値(当研究所による試算値)では、米国向けが前月比 3.6%、EU向けが同 2.8%、アジア向けが同 2.5%、全体では同 0.2%となった。EU向け、アジア向けは上昇に転じたものの、4月の落ち込みを取り戻すまでには至っていない。1-3月期に対する4、5月の平均を見ると、米国が 2.1%、EU向けが▲3.6%、アジア向けが▲2.8%、全体では 1.6%となっており、EU向け、アジア向けの低迷を米国向けがカバーする構図が続いている。

先行きについても、米国向けの輸出が輸出全体を下支えすることが見込まれるものの、欧州経済や中国をはじめとした新興国経済の持ち直しは2012年後半以降になるとみられるため、輸出の伸びは当面緩やかなものにとどまる可能性が高い。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。